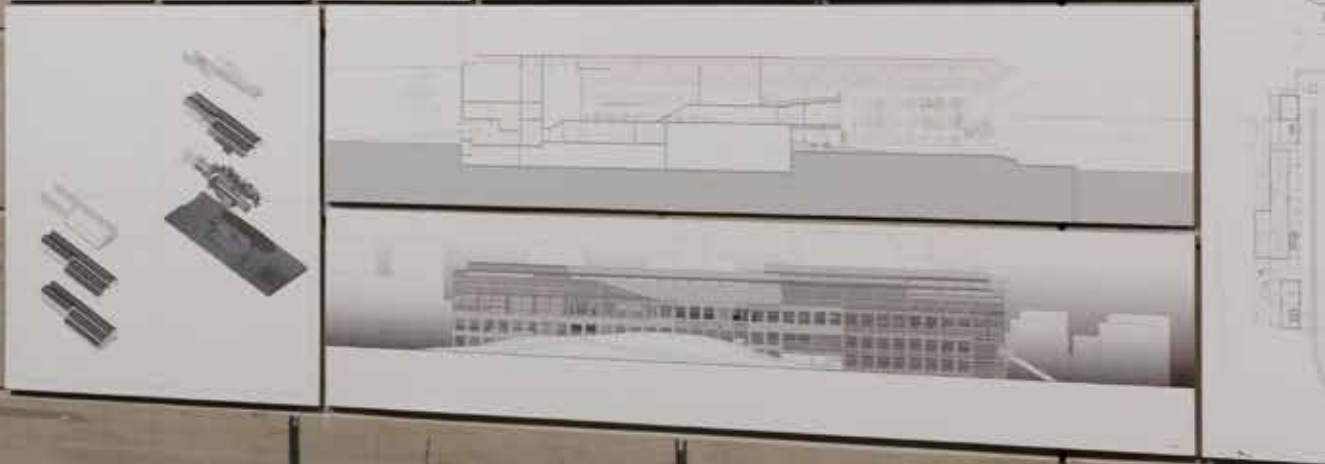


学科紹介 2024



建築ってなんだろう？

居場所と環境をつくり、社会に新たな価値を創造します

建築には良質な環境をつくり、人々の活動を支え、居場所をつくる役割があります。室内、建物、まち、地域、都市... という特徴をもった環境は互いに関係しあっています。建築はその全体を扱います。身近で永く存在する建築は、人が生きる社会の仕組みや価値観を語る存在といえます。

建築を考え、つくることは、このような社会の仕組みに働きかけ、新たな価値を創造する行為です。

ムサビ建築学科

住宅から都市、アートまで 人の営みを建築の視点から考えます

ムサビ建築学科では、環境や社会への視点と同時に、美術大学ならではの特徴を生かし、美的価値を含めた価値の表象として、建築の探求と創造を目指します。学生は美大という環境から創造の刺激を受け、美術・デザインの基礎を学び、工学技術を含む専門科目で学んだ見方・知識・方法を統合するものとして建築デザインを学びます。多様なスタジオでは建築、インテリア、ランドスケープそしてアートまで、興味を深めることができます。

建築学科で学べる領域

私たちの体験する環境すべてが対象です

建築学科で学ぶことは、単に建物をつくるための技やデザインだけではなく、人がその一生をかけて体験するすべての環境が、学びの対象になります。

■建築デザイン ■都市デザイン ■ランドスケープデザイン
■住宅設計 ■空間デザイン ■建築理論 ■構造デザイン
■インテリアデザイン ■コミュニティデザイン ■環境計画
■ワークショップ ■建築とアート ■インスタレーション

カリキュラムの特徴

「設計計画」を軸に 4 年間学びます

教育の大きな軸は、4 年間必修の「設計計画」。

「設計 = design」と「計画 = planning」を分けることなく、トータルな表現として建築に取り組むための演習課題です。講義で身につけた知識・技術を「設計計画」の課題に集約、統合させるように、豊かな創造性を育むカリキュラムが工夫されています。また、一級建築士、二級建築士、木造建築士の受験に必要な指定科目も開設されています。

スタジオ制

3・4 年次の学びは個性を伸ばし 自分の関心と興味を深めます

3 年次以降の設計演習 (設計計画 III・IV) とゼミ (卒業論文・卒業制作指導) は、各教員が主宰する特色あるスタジオ単位でおこなわれます。学生は自分自身の関心をもとにスタジオを選択し、自分自身の適性とやりたいことを探っていくことができます。共感できる領域に軸足を置き、友人との違いを確認しながら、社会へと目を向けていく場にもなります。4 年次は所属スタジオをホームベースに、卒業制作や進路の決定に臨みます。

造形の各分野を広く学ぶ

1 年次は絵画・彫刻・デザインなど、造形の基礎を広く学ぶことから始まります。他学科開設の実習科目が選択でき、建築に隣接するデザインに触れる機会も得られます。建築史をはじめ美術・デザインの理論や歴史に関するさまざまな講義科目が体系的に整い、1 年次から自由に選択できます。建築学科が開設する科目では前期には建築設計基礎、図学、建築設計表現により建築デザインの基礎、表現技法を学びます。後期からは、4 年間を通して学科の中心科目となる「設計計画」(建築設計演習) が始まります。同時に、建築士資格に必要な構造力学、構造デザインなど工学的内容の授業も 1 年次から始まります。工学部建築学科のカリキュラムに比べ、造形教育、建築デザイン教育に重点が置かれ、1 年を通して造形力・表現力の基礎を身に付けていきます。

前期・後期の終わりには外部講評者を招き、1 年次から 4 年次までの優秀作品を一堂に会して発表・講評する「パーティカルレビュー」を行います。



【前期】
建築設計基礎
図学
建築設計表現



【後期】
設計計画Ⅰ-1
設計計画Ⅰ-2

演習系科目

造形総合・彫刻
造形総合・絵画
建築設計基礎
図学
建築設計表現
設計計画Ⅰ-1
設計計画Ⅰ-2

講義系科目

[建築の計画・技術を学ぶ]
構造デザイン
構造力学基礎
基礎数学

専門に向けて基礎を学ぶ

2 年次の建築設計演習「設計計画Ⅱ」では、住宅や公共的な機能をもつ建築の設計課題に取り組みます。講義科目で学んだ知識を生かして、自然環境、生活、社会、文化といった側面にも着目し、建築デザインを多面的に深く考えることを目指します。2 年間で建築デザインの基礎、表現技法とともに、計画・設計の方法を身につけます。講義科目では、多様な専門科目が開講されます。建築計画、建築構法、建築材料学・実験、計画原論といった建築学の各分野におけるベーシックな必修科目を通して、ひとつの建築ができあがるまでに必要とされる知識をしっかりと学びます。これらの授業を通して造形としての側面に加え、技術や性能、生活や文化など建築をめぐるさまざまな側面について、理論や実践例に接していきます。また、建築デザインにとって、環境という視点、造形という視点が重要であると考え、2 年次から建築計画など学科独自の講義が始まります。



【前期】
設計計画Ⅱ-1



【後期】
設計計画Ⅱ-2

演習系科目

設計計画Ⅱ-1
設計計画Ⅱ-2

講義系科目

[建築の意匠・理論を学ぶ]
文化総合・日本建築史
文化総合・西洋建築史
文化総合・近代建築論
[建築の計画・技術を学ぶ]
建築計画 / 計画原論 / 建築構法
構造力学 / 建築材料学・実験
[造形・環境を学ぶ]
造形演習 / 写真表現

スタジオで深く学ぶ

3 年次から「設計計画」はスタジオ選択制となります。独自のテーマをもつ 8 スタジオ (前期 4 スタジオ・後期 4 スタジオ) から各期 1 スタジオずつを選択して学びます。分野としても建築デザイン、環境造形、ランドスケープデザインなど多岐にわたり、テーマの異なる 2 つのスタジオで学ぶことで、自分の関心のあるテーマを模索、発見し、個性を発揮していくきっかけとなります。

講義科目では 2 年次に学んだベーシックな科目内容をより深めた計画・構造などの科目群、実務に必要な施工・法規・設備などの科目群、さらに建築意匠、ランドスケープデザイン、都市デザインなど、領域を広めた科目群が開かれ、スタジオ選択と関連づけて履修することができます。



【前期】
設計計画Ⅲ-1
高橋スタジオ
菊地スタジオ
持田スタジオ
小松スタジオ



【後期】
設計計画Ⅲ-2
鈴木スタジオ
布施スタジオ
小西スタジオ
長谷川スタジオ

演習系科目

設計計画Ⅲ-1
設計計画Ⅲ-2

講義系科目

[建築の意匠・理論を学ぶ]
建築意匠 / 建築概論
[建築の計画・技術を学ぶ]
建築施工 / 建築法規 / 建築設備・実験
[造形・環境を学ぶ]
都市デザイン / 環境計画 / 基礎造形
ランドスケープデザイン概論

スタジオから社会へ

4 年次には 1 年間を通して 1 つのスタジオに所属します。スタジオでの時間は、進学・就職・海外留学など各自の進路へと漕ぎ出す、未来への旅立ちの第一歩となります。「設計計画Ⅳ」では空間やものづくりに関わるさまざまな視点から、スタジオの教員と非常勤講師のコラボレーションにより社会における建築や環境のデザインを意識した課題が出題されます。各スタジオのテーマを深化させた課題を通して、各自が将来どのように建築と関わっていくかを考えます。

卒業制作は最も重要な創造・表現の場です。スタジオで指導教員や仲間たちとディスカッションを重ねながら制作を進めます。まず前期には自身の関心を卒業研究にまとめ、後期には研究を足がかりにこれまで蓄積した思考やデザインの力を展開し、4 年間の集大成となる表現として卒業制作に取り組みます。スタジオではこの他にもプロジェクトや見学会などの活動も行なっています。



【前期】
設計計画Ⅳ
鈴木スタジオ
高橋スタジオ
布施スタジオ
小西スタジオ
菊地スタジオ
持田スタジオ
長谷川スタジオ
小松スタジオ



【後期】
卒業制作
鈴木スタジオ
高橋スタジオ
布施スタジオ
小西スタジオ
菊地スタジオ
持田スタジオ
長谷川スタジオ
小松スタジオ

演習系科目

設計計画Ⅳ
卒業制作

講義系科目

[造形・環境を学ぶ]
ランドスケープデザイン近代史
庭園史

短期課題

200㎡の家

この課題は、建築設計基礎・図学・建築設計表現で習得した技法を自らのデザインで実践するためのものである。

敷地・条件等:敷地は東京郊外の住宅地。南側に緑豊かな公園が位置する。住宅の規模は 200㎡。平面・断面等の形状は自由に想定。

ただし、階段を設置すること。家族構成は夫婦とする。

提出物

図面:A3 用紙 2 枚以上に下記の内容をレイアウト。表現方法は各自設定。

- ・配置図 S=1/100 1 階平面図を兼ねる
- ・各階平面図 S=1/100
- ・立面図・断面図 S=1/100 各 1 面以上
- ・その他設計の説明に必要な図(スケッチ、ダイアグラム等)、設計趣旨

模型:プレゼンテーション模型。材料及び表現方法は各自設定。

スケールは S=1/50



飯田 美起「螺旋展望台」



北林 裕雄「都市と公園を繋ぐ家」



松本 昌大「階段の可能性」

道沿いの展示空間

武蔵野美術大学鷹の台キャンパスを二分する新しくできた道路(小平 3・3・3 号線)に面する 13 号館横の駐輪場に、ギャラリーを計画する課題である。

このギャラリーは学内者だけでなく、キャンパスへの来訪者、近隣住民、道路を通学路に使う学童などが立ち寄れる開かれた性格を持つものとする。

また、このギャラリーは「境界」を意識した計画とすること。「境界」とは、関係性や繋がりの中に存在する。ここでは大学と地域、来訪者と学生、外部と内部、作品と鑑賞者などなど、様々な関係性が考えられる。そのような関係性のデザインから生まれるギャラリーを設計しなさい。

設計条件

1. キャンパス外からの来訪者も迎えるギャラリーの計画。
2. 展示用空間(室内)は 100㎡程度とし、外部空間も提案すること。
3. 展示物はある期間ごとに変わることを前提とする。
4. 「境界」の意図を明確にし、図面には道路との位置関係を示すこと。
5. 敷地内の樹木は伐採しないこと。



大西 明日香「Initiation」



高須 寛「kirikabu」



三谷 瑠子「結びの空間」

公園の中のカフェ

上水公園の中に「カフェ」を設計してください。人が感じる時や空間には、身体的または心理的な様々な要素が影響します。それら人の感情に影響を与える空間、それを成り立たせるシステムやディテール、環境などを考慮しデザインしてください。また、カフェとしてトイレや厨房などのサーバント・スペース(サポートする空間)も必要になります。

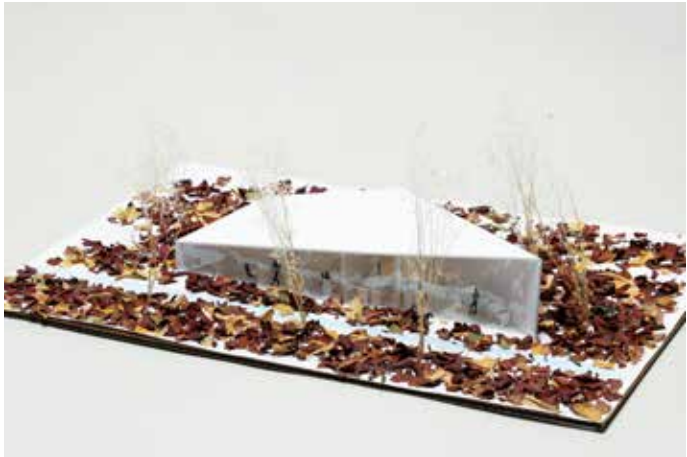
「カフェ」とは、どのような建築・空間なのか、自分なりの答えを表現してください。

設計条件

1. 別紙で指定する敷地内に計画すること。
2. 延床面積は 150㎡以内とし、外部空間も提案すること。
3. 階数は 2 階建てまでとする。
4. 適切なサイズのトイレ、厨房、事務室などを計画する。
5. 構造は自由とする。
6. 敷地内のレベル差は、ないものとしてもよい。



北林 裕雄「うねり ひねり」



塩津 ジョアンナ 慧夏「いろんなパノラマ」



保井 彩絵「内向と外向」

第一課題

小平小川町の住宅

武蔵野美術大学小平キャンパス北に位置する敷地に住宅を計画・設計してください。敷地は南・西で畑地に接し、北側は小川用水を挟んで邸宅の庭に接しています。南の武蔵野美術大学校地との間には、現在、畑地からなる生産緑地が広がっています。新たに住宅やアパートが区画ごとに計画されつつありますが、そのほとんどは畑地と無関係に計画されています。

青梅街道南にある既存の住宅と畑の間にある今回の敷地に「畑地と共生する住宅」を提案してください。

タイトル（テーマとなるキーワード）を決めること。

設計上の留意点

- ・景観・方位・季節の変化・日射採光通風・樹木・プライバシーと外に開くこと
- ・構成に合う構造形式
- ・南側の畑地は残る前提とする



ハク ウトウ「Vinyl House」



小濱 みちる「軒下の住宅」



藤井 杏莉「tacit dimension」

第二課題

小規模集合住居

都心エリア駅近の利便性高い場所に、延床面積 400㎡の集合住居を計画・設計しなさい。集合住居の形式は、共同住宅・シェアハウス（共用空間があるもの）または長屋（共用空間がないもの）どちらも可とするが、「コモン」についての考えを各自何らか表現しなさい。カフェやオフィス、集会場など、有用と考える施設を併設しても良い。タイトル（テーマとなるキーワード）を決めること。

設計上の留意点

- ・ユニットプランとその組み合わせ方（構成の型）
- ・日射採光通風
- ・周辺環境との関係性
- ・プライベート・コモン・パブリック（他者との関係性）
- ・構成に合った構造形式



瓜生 朱里「bouquet house」



手塚 颯太「Inconsistent images」



目時 誠太郎「Nakano Huts」

第一課題

木造の駅舎 ―木造軸組架構から考える

高尾登山鉄道の清滝駅は、高尾山へ向かうケーブルカーの乗り口である。京王電鉄の高尾山口駅を出てしばらく歩くとここに着く。高尾山は年間の登山者数が 260 万人を超え、世界の登山者数を誇る山である。低山ながら多様な植生などに恵まれ、都民の憩いの場となっている。現在、三角屋根の清滝駅がある。そこを敷地と設定し、新しい清滝駅を提案しなさい。また駅前広場も設計するものとする。

条件

規模：建築面積は現状程度

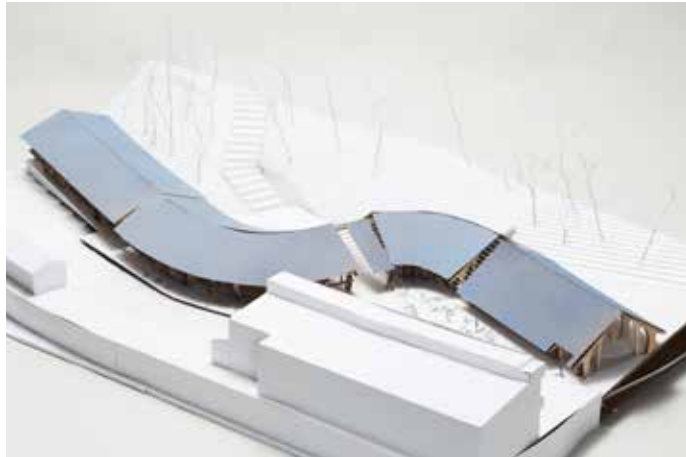
構造形式：木造軸組で、基本平屋と一部 2 階を設けてもかまわない。

駅舎機能：切符売場、改札、待合、ホーム、トイレ、事務室ほか。

ホームは同位置とし、横にあるリフトの駅舎は課題の対象とはしない。

＋α機能：高尾山でのアクティビティと連動可能な施設を複合させる。

用途は各自設定。半屋外空間は提案可能だが、必ず屋内空間も組み込むこと。



柳沼 胡来奈「gradual」



岩永 小春「シンボルとなる駅舎」



海藻 美緒「木漏れ日の駅」

第二課題

新たな世代のための宿泊研修施設

場所は、八王子の山の中にある大学セミナーハウス。この大学協同の宿泊研修施設は、吉阪隆正によって配置計画並びにさまざまな研究棟およびそれに付随する施設が設計された。近年老朽化を理由に一部が取り壊され、原設計に見られたユニットハウスといわれる分散型の宿泊棟は大部分が姿を消し、吉阪建築を愛する人々にとっては心苦しい状況となっている。この施設ではさまざまなタイプの共同生活を想定した建物があり、学生や先生がそこにある期間滞在し、研究発表などを通じて交流し理解を深めることのできる空間となっている。

今回の課題は、指定された範囲内に下記の機能をもつ建物あるいは建物群を設計する。敷地は、傾斜の激しい部分、平らな部分を含むが、各自、自分の計画にあった敷地を想定し完成させること。

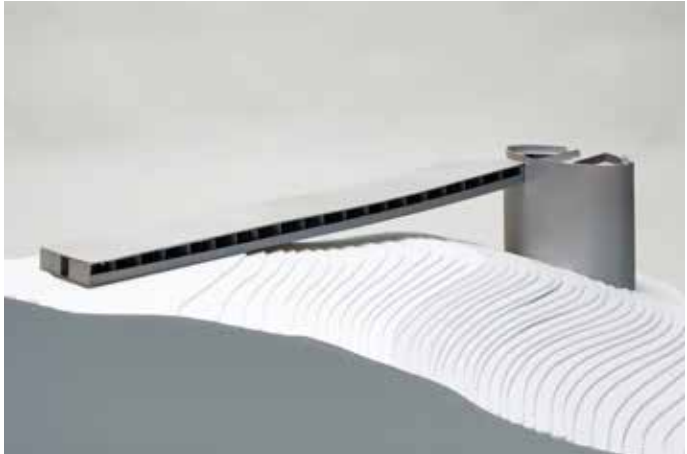
1.40 名が宿泊できること。2. 研究発表などができる集会室。3. サークルの合宿を具体的に想定する。4. 自炊設備、洗濯、共同の浴室。5. 屋外 BBQ スペース、それに必要な設備等。



安達 愛唯「記憶」



小紫 龍志「uterus」



ル イースアン「inconvenience」

持田スタジオ

学びと仕事の共同体

10 年前に少子化によって廃校となった小学校跡地を敷地として、自然豊かな中山間地に移住や二拠点居住をしてきた子供たちと地元住民のための小学校、大人たちのコワーキングスペース、地域コミュニティのためのホールやカフェの3つの機能が複合した建築（群）を設計する。敷地となる旧五常小学校は、先人が四賀地域のなかでも特に環境的に良い場所を選んで計画していたことが伺える。山間地の里山の風景のなかで、蛇行する会田川がつくった南側に開けた地形と、雑木林の裏山があり、空、光、風、水、地形と豊かな関係が存在する環境である。この環境を積極的に選んで住まう人々が働く場所やその価値を共有する共同体は、地域とどのような関係で接続することができるだろうか。特徴的な地形や内陸性の気候、文化、歴史などのリサーチから着想し想像力を発揮した建築デザイン、環境デザイン、地域デザインの重奏的な提案を期待する。



兵藤 真子「by your side」



リ ヨウ「kakurenbo」



リュウ シンエツ「山登りように」

高橋スタジオ

都市の環境単位 — 富ヶ谷

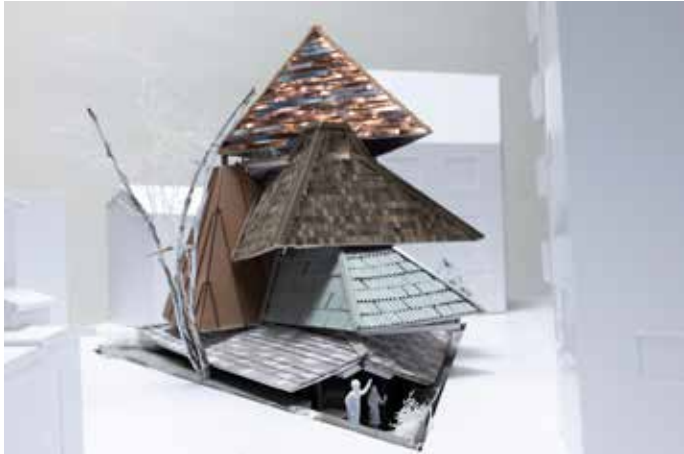
都心では、巨大再開発によって、既存の周辺と不連続な環境単位が出現し続けている。一方で、界限性をもちコンテキストが豊かなエリアには、その自然発生的で時間をへた資源が再評価されながら、ところどころに課題を抱える環境単位も存在し続けている。対象エリアの中で、ひとつの建築的実践によって周辺との関係性が再構築され、あらたな風景や人の行為が生まれるような場所に、建築を構想し設計しなさい。対象エリアは富ヶ谷。渋谷や新宿が徒歩圏内。代々木八幡駅と代々木公園駅がある利便性と、代々木公園の緑豊かな環境が両立する。大通りから一步入ると遊歩道や小路が折れ曲がりながら連なり建物の規模や建ち方も多様。「パブリック性の高い用途（内容は自由）＋住居（単身、家族、シェア、SOHO、ゲストハウス）」を各自で設定する。規模は敷地の法的与件内で実勢を把握しながら適切に計画する。敷地内で完結せず、周辺のコンテキストに対する積極的介入を必須とする。



杉山 峻涼「ウプシデিজーズ」



山田 遼真「Apertube」



吉村 優里「日常のうらがわを」

小松スタジオ

マテリアルから空間まで

まず「マテリアル」についてリサーチ・実験・考察をします。既存のマテリアルでも独自の捉え方や加工方法、組み合わせにより、新たな魅力を引き出す事ができるでしょう。みずから手を動かして新たなマテリアルを開発しても構いません。そしてマテリアルに内在された時間や物語、かたちからも着想を得て、空間へとつながる作品を制作してください。作品は、プロトタイプとグラフィック・模型でのプレゼンテーションをはじめ、インスタレーション、立体造形、平面作品、映像作品など、自由な表現形態から、建築的表現を試みてください。



佐藤 優樹「均衡」



平林 知也「行為の天秤」



ジョン ユンビン「407」

菊地スタジオ

神宮前に作るストリートカルチャーの郷土資料館

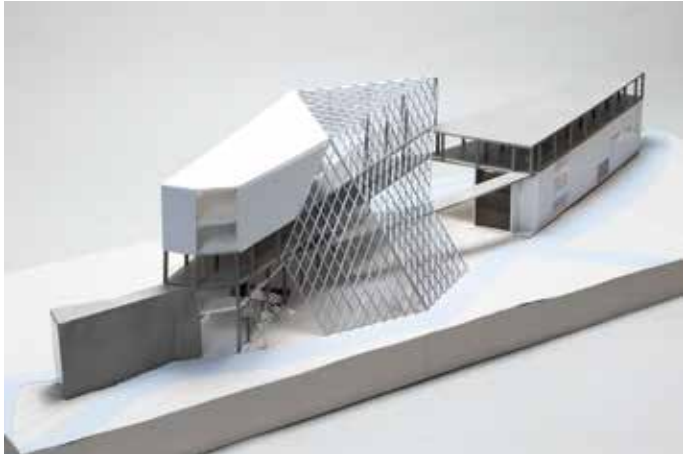
この界隈は、ストリートカルチャーの重要な発信拠点としていつの時代も重要な役目を果たしてきた。現在は、渋谷、表参道、原宿、神宮前、竹下通り、明治通り、キャットストリートと広範囲にわたって町同士が接続し、町としても新陳代謝を繰り返しつつ発展してきている。そして、2020 年の東京オリンピックに合せて新国立競技場が千駄ヶ谷にできることを契機に人の流れは大きく変わろうとしている。外苑前駅、千駄ヶ谷駅、信濃町駅だけではスタジアムの人の流れを裁ききれないだけでなく、暗渠である隠田川の上を走るキャットストリートに沿って人が大きく移動してくることが考えられる。そのとき、今までそれほどポテンシャルを持っていなかったキャットストリートのエンドであるこの敷地がスタジアムと原宿側を繋ぐ重要な拠点として生まれ変わるだろう。そこでこの敷地を都市的文脈をふまえつつ、過去と未来を繋げるストリートカルチャーを扱った郷土資料館を提案してほしい。



飯島 裕也「HERITAGE」



和田 大河「ブロンズへきの資料館」



市川 由貴「原宿 Street Art Station」

鈴木スタジオ

MORE-THAN-MATERIAL

—Three Generation House + Space for African Community

荒川のネットワークに属する既存住宅を再構築します。築 60 年の 2 階建ての戸建てには、小さなアフリカンショップとオーナーとゲストのための居住空間があります。アフリカの文化に深い関わりを持つ彼女は、30 年以上前にこの店を始めた。荒川の地元の人たちとの長い付き合いの中で、アフリカン・コミュニティの出会いの場にもなっていました。既存の店舗にダンスや音楽のスタジオを併設し、さらにオーナーの家族のための住宅を増築する「三世代住宅」を計画しました。建物の外観は年月を経て魅力を増していますが、同時に構造も不安定になりつつあります。既存の建物は貴重な資材の宝庫です。循環型社会の実現に向け、循環型建築は、建材の循環の中で資源を循環させる解決策になりそうです。建築の分野では、材料循環の概念について、ルールやアプローチを定義する取り組みが増えてきています。新しい建築物に既存の材料をどのように再導入するか？解体するにもかかわらず、その家の個人的な歴史、素材、空間の雰囲気をごどのように保存することができるのでしょうか？



泉田 剛「Renovation : The Identity of Building Elements」



杉山 峻涼「おだんご」



小河原 奏也「A」

布施スタジオ

敷地選択型住宅プロジェクト—住宅+αの新しい可能性を提案する

敷地選択型の住宅 + α のプロジェクトである。自分が事業主となり、土地を選定して住宅 + α を設計しなさい。事業主である自分の自邸 + α でもよいし、クライアントを設定した住宅 + α でもよい。決められた敷地ではなく、計画する建築に最適な敷地選定から参画するプロジェクトだから出来る住宅 + α を設計しなさい。自ら設定した敷地と建築的テーマに基づいて住宅 + α の用途を併設して出来る住宅の新しい可能性を提案すること。

設計条件

不動産 WEB サイトから下記の条件を満たす敷地を選定すること

- ① 地域：各自の生活圏内
- ② 価格：8000 万円以内
- ③ 延床面積 100㎡以上が可能であること



飯島 裕也「一日」



山田 侑奈「重なるくらし」

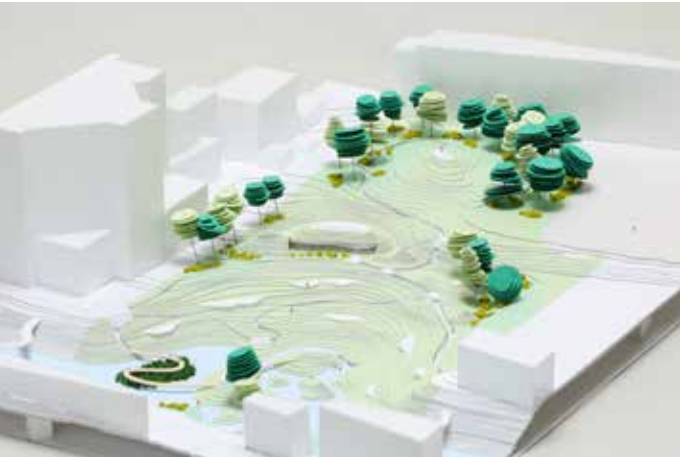


吉村 優里「擁壁と住まい」

長谷川スタジオ

URBAN NATURE —都市の自然と生活空間の共存

この夏も猛暑が続いたが、都市の温暖化は顕著なものがある。都市はその基盤となっている地形や河川、植生やそこに生息している多様な生き物などから成り立っていることを私たちは忘れがちである。再開発でタワーを建てて、舗装の上に樹木を植えても、それは都市の（本来ある意味での）自然とは言い難い。もっと都市という存在の基盤に目を凝らし、そのうえで私たち都市生活者の居場所を作ることば可能だろうか？今回は東京都下、目黒川沿いの敷地を対象とする。まず東京の地形の成り立ちを知り、河川や雨水、湧水という水の流れを知り、川沿いの風の流れを知る。さらにその場所で暮らしている他の生き物たちやかつて暮らしていたがいなくなってしまう生き物たちのことを学びたい。人間だけが生きていける都市はいずれ破綻する。持続していける都市の姿の一つのモデルをこの課題でみんなに考えてもらいたい。それは他者と共存しつつ、さらに豊かなライフスタイルを考えていくことである。



佐々木 楓子「公園独り占め」



尾関 慧一「中目黒シアターパーク」



田嶋 小梅「みどりの入り江」

小西スタジオ

傾斜地にたつホテル

空間のコンポジションを秩序ある構造をもってどのようにコンストラクションするか、を考える。建築と構造のバランスに思考の重点を置き、全体を包括できる秩序を持った構造デザインを発見することで、建築デザインや計画の質がより高まることを求める。再開発の進む「熱海」に魅力ある余暇・宿泊施設を提案してください。近年熱海の温泉街では廃墟となっていた温泉ホテルの解体が進むなど、一時は利用客が減少していた熱海温泉も再開発が加速しています。海も山もあり、リゾート気分を味わいいつも品川から 38 分で行けるアクセスの良さからワーケーションの場としても人気を集めています。熱海の地形は「背山臨水（はいざんりんすい）」の地形で、山から海へ向かってすり鉢状の地形となっています。今回の敷地も高低差 30M ある熱海グランドホテルの跡地となります。サンビーチに面したローケーションを活かしながら、魅力ある空間を計画してください。



池田 大介「float」



福中 彩世「to face the ocean」



菅野 優貴「傾斜のある海沿いの温泉街にたつホテル」

持田スタジオ

「微環境」をまなぶ・よむ・つくる

この課題では、これまで人間が築いてきた空間の環境を、居心地を構成する要素ごとに分析的に見直す練習をした上で、ある特有の質を持ったエリアを、自分のからだ（主観）と各種の環境パラメータを測定できる機械（客観）を用いて、さまざまな「微環境」をよみこむ。そして、発見された居心地のいい場所/よくできそうな場所のなかから敷地をえらび、その場所の特質をふまえたプログラムと居場所の設計に取り組む。

設計条件

敷地：エリア各所の環境分析をした上で、各自選定する

機能：設計した環境をもっとも使い倒せる機能を各自構想する

規模：500㎡以上

その他：敷地固有の居心地を前提に設計する

新築であること（既存建物は参考にしてよいが、設計は更地に行う）

地形・擁壁・水辺など人工/自然を問わず土木的な要素は取り込んでよい

棟数・内部外部の比率などは自由



始良 壮志「pondside」



朝妻 貴徳「洗濯ゲートウェイ」



並木 萌々子「風と歩く」

鈴木スタジオ

地域特有の魅力をひきだすしかけ

東京都台東区谷中を対象として、歴史的文化的な資源 自然を含んだ景観・地域活動、さらに は都心部における向こう三軒両隣の関係性を学び計画に反映させること。また、建物が建てられた後に、地域住民等の関係者が主体となり育てる場所になるよう計画すること。対象地にある歴史的建造物や樹木の保全（一部でも良い）を提案に含めること。計画を進める 過程のなかで、残したいものの価値をみだし、保全し価値を高めていくため、そして機能を維持するための課題を明らかにすること。

授業の進め方

1. みる 対象地の見学、各自の対象敷地を選ぶ。
2. さがす 地域の特徴を学ぶ。
3. かんがえる 地域の現況をまとめ、課題を整理。プログラム・提案を検討する。
4. つたえる スケッチ、ダイアグラム、図面等様々な表現により計画内容を伝える



秋 遼太郎「人と時間を繋ぐ茶屋」



秋定 里砂「みかど横丁」



辻 真紀「みかど茶房」

高橋スタジオ

場所の建築

窮屈で息苦しい社会のなかで、建築が現実的な課題への応答に留まり、理想を掲げる建築が少なくなっているように思われる。あるいは場所に対する建築の応答もどこか画一的で、場所性がまるで建築の装飾のように表層的に扱われるようになって久しい。なんとなく優しい建築にまとめ上げられた文句の出ないローコストな木造外観や、建前の場所と素材のストーリー、遠くの山並みや街並みに合わせた、など、もちろん中には確かなものはあるのだろうけど、基本的には議論や批評を避けるための手段のようである。そこで、直接的に場所に関係する建築の「外観」を出発点にしながら「場所の建築」について考えてもらいたい。



田島 蛭「Sound Scape」



恩田 凛太郎「道の屋根」



宮地 凌央「色彩とハーレーション」

布施スタジオ

「○○」が決める建築—建築のストーリーを考える

例年、「○○が決める建築」というテーマを出題してきた。今年はその○○のところに、自らが言葉を当てはめてみることに。ある意味では、建築のタイトルのようなものと考えても良いかもしれない。自らの興味、研究との関連性などから導いても良い。○○を考えることは、建築にストーリーを与えることに他ならない。建築には、その建築自身の素晴らしさに加えて、ストーリーが必要である。建築の用途、建築の敷地、建築の形、建築の構法・・・ストーリーとはそれら全てを繋ぐ一連の流れの様なものである。建築を見つめながら、そのまわりにあるものや背景も同時に考えること。ストーリーを組み立てることは、建築をより強固なものにする。建築の意味を高め、建築のデザインの源になることもある。そして何より、誰かにその建築を伝えるときに大きな役割を果たす。この課題では、建築を丁寧に考え、設計の内容、質、密度を高めることを大切にしている。その上で、敷地選びから、用途や規模の設定、役割や効果など、一貫した流れを考え、トータルで表現することを目指してもらいたい。



一條 遥貴「「つなげること」が決める建築」



奥田 涼太郎「連関が決める建築」

小西スタジオ

電庫庫跨線橋の再生計画

JR 中央線三鷹駅と武蔵境駅の間に位置する三鷹車両センターには、全長約 90m の跨線橋が架けられている。太宰治は、この跨線橋を気に入って度々訪れていたと記録されており、現在でも周辺の人々の散歩道として親しまれている。しかし、この跨線橋は築造から 90 年を超えて老朽化し、全面保存は難しいとの立場から全面撤去とする可能性が高いと言われている。完全撤去されてしまうと、歩行者の往来の確保という役割が損なわれるだけでなく、周辺住民に愛された風景も損なわれることとなる。次々と取り壊されて行くことが予想されるこの社会状況をふまえて、どうしたらこの三鷹電庫庫跨線橋を再生出来るかを考えなさい。現在ある跨線橋の構造体の一部または全部を再利用して提案してもよいし、全面撤去後に新しく架けられるものとして提案しても構わない。ただし、交通インフラとしての機能のほかに、何か新しい機能や用途を与えること。橋を交通インフラとしてだけ考えるのではなく、建築的な機能や用途を持たせることで、次の世代につないでいくことが出来るような付加価値を新しく再生する跨線橋に与えなさい。



石塚 悠太郎「三鷹跨線橋再生計画」



井坪 亮熙「武蔵野美術大学三鷹キャンパス」



外山 莉久「庭から、まちへ」

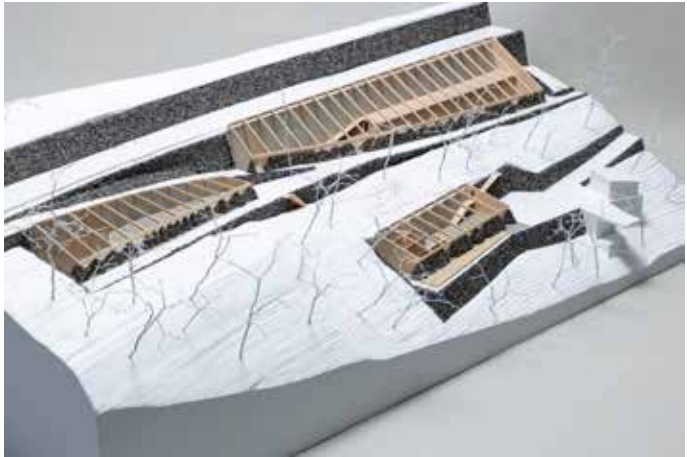
菊地スタジオ

石を学び、石から建築を考える

普段目にする石から建築を考える。一般的には建材として意匠的な仕上げとして使われる石。それはどこから来たのか、何からできているのか、なぜそのような模様や色を持つのか。実際に多摩川へ採取しに行き、観察、調査、検討を行う。石の持つ特徴（色、硬さ、重さ、模様、冷たさ、成分、成り立ちなど）を引き出して建築を作ること。石の用い方は概念的な用い方ではない。より具体的に石を活用した提案であることが必要である。石の何を発見し、いかに建築に用いることができるか、観察力・発想力を発揮した皆さんの提案を期待する。具体的な敷地・用途を設定し建築を設計すること。用途は石に関する施設、自然観察をする博物館や情報館、ビジターセンターなどでも良いし、その他石を活用した建物とすること。



大川 顕「大地と繋がる建築」



阿部 朔太「石垣に引き継ぐ建築」



コ シケツ「REVIVAL」

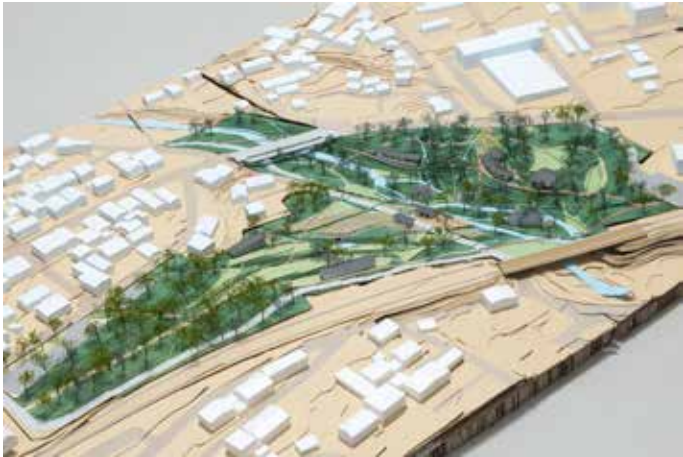
長谷川スタジオ

軽井沢シリーズ - 中軽井沢 HUB-PARK-

場所：中軽井沢駅、軽井沢町庁舎、軽井沢病院、湯川を結ぶエリア
軽井沢はリゾート観光地としての側面がありますが、長引くコロナ禍による働き方や、子育て、住まうことについての意識の変化などにより、軽井沢に移住してくる人々も増えているようです。定住者、東京への通勤者、長期滞在の別荘客など様々なライフスタイルが混在するのも軽井沢の特徴です。そこで、今回は軽井沢の住人が日常的に過ごせる新たなオープンスペースの提案を行ってもらいます。さまざまなライフスタイルを持つ地元の住人の日常生活に目を向けた時、すぐそこにある豊かな自然環境と暮らしに纏わる施設（駅、役場、スーパー、公園、教育施設 etc）の双方のポテンシャルを活かしきれていな居場所が多くあります。「そこにある自然環」と「地域住民の日常」の関係性を生かす場を作ることで、地域への愛着、人との関係、自然環境の再認識が持てる場となるでしょう。観光地としての軽井沢に、新たな顔となる日常空間の提案を求めます。今回は駅や行政地区が集積するエリアに軽井沢の象徴である湯川と一体化した公園を提案し、町の大きな HUB としての公園を考えてみます。



鈴木 美音「覗きこむ広場」



田崎 陸「水が作り出す空間」



山田 のどか「敵る」

小松スタジオ

表現する小屋

「過去の好きな表現者と今」を手がかりに、リサーチ、考察とトライアルをはじめる。あなたの手から産み落とされるものをじっくりと見つめること。最終的なアウトプットは、サイズ自由な「小屋」とする。縮尺の考えは取り入れず、展示される場所も含め、実物として表現すること。そこには“あなた自身も気づいていなかったかもしれないあなた”が映し出される。“何かを問う”ているのかもしれないし、“何かに応えている”のかもしれない。そして、産み落とされたカケラを自分自身はもちろん、学生同士・教授・講師の皆で共有し、刺激しあい、さらに育てていきたい。



金丸 和樹「テトリスと参考書」



松木 皓之祐「〇」



森田 夏奈「私は私の居場所をつくった」

産業遺産転用計画

吉田 真 | 布施スタジオ | 建築設計

用途が求めるシステムが更新されれば形をもった建築物は取り残され無用の長物となってしまいます。そこで建築と敷地を切り離さず一つの立脚点として捉え、それらの地場的な動態保存に向き合うことで、解体と構築の循環体系から一歩距離をおきます。

そのように時を経て都市によって解体され続ける建築物との普遍的な関わり方を見直すことは、逆説的に建築が都市構造に介入していく手掛かりになるのではないのでしょうか。



海への「おくりもの」

奥田 涼太郎 | 布施スタジオ | 建築設計

ダムは水だけでなく河川の働きで運搬される土砂をも堰き止めている。土砂供給が減った河口部の海岸線は減少し、消波ブロックが敷き詰められた風景へと姿を変えた。

天竜川水系にある長野県のダムを敷地とし海へ砂を送り届けるための建築を提案する。建築が作り出す置き土と呼ばれる円錐状の砂山は、ダムの放水による流失と建築による補充を繰り返し、その現象は生活や生業の新たな指標として集落に立ち現れる。

やがてダム直下に作られた建築群の営みは、かつてダムによって失われた 70km 先の風景を少しずつ取り戻していく。



強く生きる子ども達の新たな出発点

吉川 布記 | 布施スタジオ | 建築設計

日本には児童養護施設という、親と死別、親からの虐待などを受けた子供たちが住まう施設が存在する。しかし、彼らの存在は世間から隠され、建築的にも閉鎖的な場所である。

心の傷を負った彼らの居場所がこのままで良いのか。そこで、彼らが施設の中でただ暮らすだけでなく、地域との交流を図る機能と共に自分たちの居場所として誇りを持てるような建築を提案する。

一つの都市、街並みのような建築の中で、自分と他者が関わり、対等な立場で空間を共有することで、擁護される立場とその他という構図から脱却することを目指す。



pass

始良 壮志 | 布施スタジオ | 建築設計

再開発が予定されている新橋駅東口の地下街は、インフラが開発を進めた結果生まれた都市の残余であり、同時にどのインフラからも等距離にある「通過点」となっている。

ここでは、縮小時代の再開発として立体的な駅前公園を設計した。三角形の敷地を摺鉢状に掘削しその残土を盛り土するという土木的な操作によって、大都市の中に地面という野生を取り戻していく。

そこに、乗り換え動線、地下鉄、帯水層といった様々なリズムが発露し、重なっていく。この駅前空間は都市のダイナミズムのあらわれとして汐留の高層ビル群と対峙しながら存在していく。



溢れる

加藤 美紗 | 小松スタジオ | インスタレーション

一見するとガラスや氷にも見える物体特有の変形や光の取り込み、景色の歪ませ方を探る。
通常のゴム風船よりも透明度が高く頑丈な PVC 製バルーンを使い、自由度の高い水のブロックを作る。

ブロック越しに見ると近くのは拡大され、遠くのは上下左右反転されて写る。至近距離の芝生や雨粒、壁の向こう側の鑑賞者、遠くにある武蔵美の校舎や道を行く人々の歪みの違い、さらにブロックの隙間から見える純粋な視界。それらの要素から作品の境界線をぼかしていく。



togoshi

朝妻 貴徳 | 布施スタジオ | 建築設計

徹底的な他律性、超コンテクスチュアリズムによってその場の固有性を持ちながら建築の自律性を獲得する。過剰に周辺環境を読み込み、それらの膨大なコンテクストを等価に扱い設計を行うことによって逆説的に自律性の獲得を目指す。

過剰にコンテクストを拾い上げそれを等価に扱うことによって他律性は消え自律的なものとなると考える。またそれらに対し徹底的にスタディを繰り返すことで周辺に対して得られぬカタチが建ち現れた。

全てのカタチに説明が求められる昨今の状況に対してこの建築を提案する。



世界の見方

一條 遥貴 | 布施スタジオ | 建築設計

模型ってなんだろう、CG ってなんだろう、展示って、創作って、人生って ... なんだろう。この世の媒体全部を更地からやり直したら、僕らに何ができるんだろう。

僕は文脈に、名前に、情報に縛られる。そうして、ありえたはずの沢山の可能性を殺していく。いろんなものが見えたようになった気になって、等価に視野が狭窄していく。

建築なんか作らない、インスタレーションなんか作らない、アートなんか、デザインなんか ... まだ名前のない場所を目指すための小さな道標
世界の見方の話



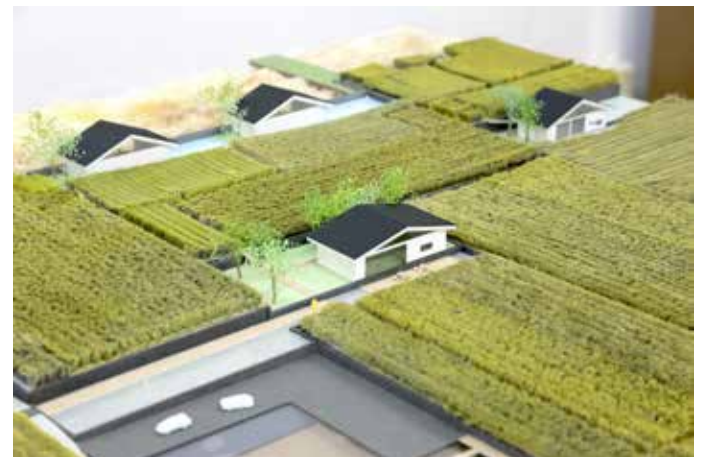
相互作用が作り出す新たな田園風景

田崎 陸 | 長谷川スタジオ | ランドスケープ

自然の力を活用しつつ、人間側からも還元するという相互作用の構築を提案した本作品。

対象地となった猪苗代湖とその周辺の環境は地元民のシビックプライド的な存在。何百年もの時間をかけて作り上げられてきたその風景を今一度、既存の環境とその土地の課題と向き合い新しい風景へと改変を試みる。

自然浄化、管理、ツーリズムの観点から合理的に設計された自然浄化施設を既存の田園に沿って構築し観光地化させることで、課題解決だけでなく今までにない新たな田園風景としても成立させることができるのではないかと考えた。



つつんで、ひらいて

恒谷 京伽 | 持田スタジオ | 建築設計

誰もが自分らしく生きられる共生社会を目指すには、幼少時から多様性を認め合う心を育むことが効果的であろう。

本計画では、昔私の通学路でもあった小金井市を敷地に、インクルーシブ保育に特化した「子ども園」と、その給食室を利用する「地域食堂」を提案した。

個々のニーズの違いを包括する多様な遊び場を設けた。セキュリティを確保しつつ、園内を巡回するだけで頭と身体を鍛え、認め合う心を育むことができるよう設計した。

誰もがのびのびと、自由に、健やかに過ごせるように願いを込めて。



解体の実像化

近藤 直輝 | 布施スタジオ | 建築設計

日本における都市の更新方法は解体と構築を繰り返して都市を発展させてきた。現代は解体と構築の双方が入り混じる「都市の新陳代謝の過渡期」として位置づけることができる。

本修士制作では建築の「解体」に着目することでこの時代における都市像・建築像を模索した。敷地である名鉄名古屋駅地区は再開発が予定されており既存ビルが解体される。

段階的な解体と一時的なプログラムを設計することで解体を実像化し現代の都市像・建築像として都市に提示する。



踊る都市 ―都市の舞台としての天井・壁から建築を考える―

西津 尚紀 | 布施スタジオ | 建築設計

都市とは、多くの人が集まり、自分とは異なる異質なものに会うことができる。誰もが演者で観客である”舞台性”に面白さがあると思う。

しかし再開発により都市の垂直化・同質化が進行した結果、内部と外部の距離は遠ざかり都市の舞台性の発露は地上からファサードやウィンドウへ、その上演内容は人々の活動から企業の活動に移行している。

そこで、このファサードやウィンドウを新たな舞台として扱い設計を行うことにより、再び都市の舞台性を魅力あるものへと変える今後の再開発における一つのプロトタイプとなるような商業施設建築と新たなプログラムの形を考えることとした。



tuuuuube

三原 陽莉 | 高橋スタジオ | 建築設計

建築の一部として統合されている「モノ」を、決められた役割を担う「構成要素」から一度解き放つ。

するとそれらは独立したエレメントに変容、多義的で多用途的な様相をまとう。その「モノ」同士を再度絡めるときに生ずる干渉やずれに、作者は新たな居場所の可能性を見出した。

「拡大・変形・複製」という手法でモノを操作しながら組み上げた集合住宅は、既成概念から大きく逸脱し、私たちに「家とは何か?」と問いかけてくる。



社会での活動

カリキュラムの一環として社会連携による設計課題を設けることや、課外活動にて積極的な企画参加をしています。

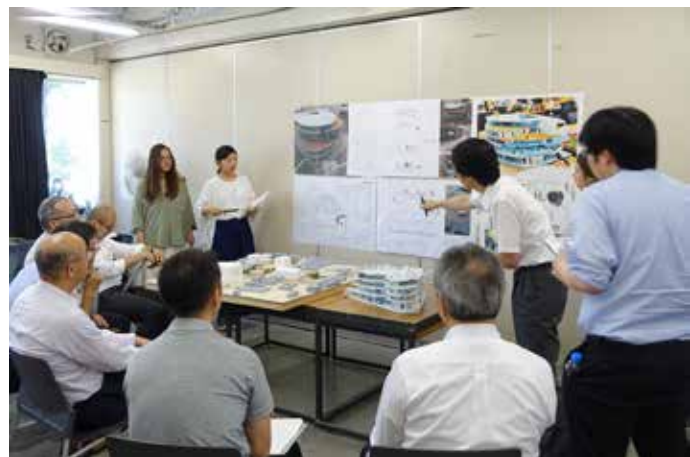
建築学科では、企業や自治体とのコラボレーションで、地域コミュニティづくりに実践的に関わるプロジェクトに参加し、建築やアート、ランドスケープの領域を横断して社会に向けた提案を行っています。
また海外の大学との共同ワークショップや訪問教授の招聘など国際交流プロジェクトも多数実施し、世界へ向けて発信していく人材の育成に取り組んでいます。

■ 2010 年度以降の学外プロジェクト

愛知県額田天使の森アートプロジェクト / 茨城県旧八郷地区・アートサイト八郷 / 太田駅北口駅前文化交流施設ワークショップ / 神楽坂プロジェクト / 笠間の菊まつりプロジェクト / 鎌倉御成町プロジェクト / 近代化産業遺産愛岐トンネルプロジェクト / 高知県佐川町プロジェクト / JR 中央ラインモール計画 / 瀬戸内・女木島プロジェクト / 常盤平アートセンタープロジェクト / 徳島県勝浦川環境アートプロジェクト / 松戸アートラインプロジェクト / 横浜黄金町再生プロジェクト / ららぽーと立飛スペースデザインプロジェクト / 陸前高田市今泉地区移転計画プロジェクト / 横瀬町プロジェクト / 小平市連携プロジェクト「公共空間と公共施設から考える小平未来のまちとくらし」

■ 2010 年度以降の国際交流プロジェクト

「すぎ間」から考える新しい住まい方 (デンマーク王立芸術アカデミー建築学部) / チェルシー・キャンパス・プロジェクト (ロンドン芸術大学チェルシー・カレッジ・オブ・アート・アンド・デザイン) / 地下探訪―都市形成の変遷とカタフィル文化の考察 (パリ国立高等美術学校) / 訪問教授フィリップ・ベヌカン (フランス) / 訪問教授ハッリ・コスキネン (フィンランド) 「Light Matters」 / 訪問教授ソフィー・クレール (オランダ) 「Field Essays Workshop “matter that matters”」 / 訪問教授エンリック・マシップ (スペイン) 「ラーバン」



「公共空間と公共施設から考える小平未来のまちとくらし」社会連携プロジェクト (小平市)



「武甲山に見える高台に作る素敵な場所の提案」官学連携プロジェクト (横瀬町)



「集積あるいは変化するストラクチャル・アート」学生サマーセミナー (日本建築学会)



「フューチャースケープ・プロジェクト」象の鼻テラス開館 10 周年記念展 (象の鼻テラス・横浜市)



「影絵ワークショップ」紅葉とたてもののライトアップ (江戸東京たてもの園)



「絵ほんかわごえ」(NPO 法人川越蔵の会)

施設紹介

鷹の台キャンパス・8 号館 3 階が、建築学科の専門科目を学ぶメインフロアになります。



建築学科研究室 | 教員の個人研究室が集約、建築学科の各種窓口となります



製図室 | 1-3 年生まで学年別の製図室で設計課題の制作を行います



講義室 | 建築学科専門科目の講義のほか、イベントや発表なども行われます



ゼミ室 | 4 年生は所属するスタジオごとに制作を行います



展示スペース | 普段はフリースペースですが、作品の展示・講評も行われます



撮影スタジオ | 課題で制作した作品の撮影を行うことができます



工房工作室 | 工具を用いての加工や部材の組立て、実習授業の教室として使います



工房加工室 | パネルソーやスライド丸ノコ等の加工機械を使用して作業が出来ます

教員紹介

多彩な専門分野・研究テーマをもつ教員が、学生ひとりひとりの関心に合わせて指導します。



小西 泰孝 主任教授

小西泰孝建築構造設計 主宰

www.konishi-se.jp/ksl/

1970 年千葉県生まれ。95 年東北工業大学工学部建築学科卒業。97 年日本大学大学院理工学研究科修士課程修了。97 年佐々木睦朗構造計画研究所入社。2002 年小西泰孝建築構造設計設立。17 年～武蔵野美術大学教授。主な作品（構造）に「神奈川工科大学 KAIT 工房（石上純也、2009 年日本建築学会賞、第 3 回日本構造デザイン賞）」、「上州富岡駅（TNA、2014 年日本建築学会賞）」、「立川市立第一小学校（シーラカンスアンドアソシエイツ）」、「中国美術学院民芸博物館（隈研吾）」など。

－専門分野・研究テーマ

構造デザイン、構造設計、構造力学。建築を主とし、その他、工作物、橋梁、什器、インスタレーションなどを含んだ、様々な規模・用途に対する構造デザインの研究。

－小西スタジオのテーマ

「構造」には、地震、暴風、積雪などの自然災害力に対する防御だけではなく、建築・環境のデザインや機能をより高めることができる力があります。建築と「構造」の融合を高い水準で図り、建築をより美しく、より豊かに、より安全にすることで、地域・社会に寄与貢献することを目指します。



高橋 晶子 教授

建築家 / ワークステーション 共同主宰

takahashistudio.tumblr.com
www.facebook.com/ 武蔵野美術大学 - 高橋スタジオ
-616957391733124

1958 年静岡県生まれ。80 年京都大学卒業。82 年東京工業大学大学院修士課程修了。86 年博士後期課程中退。86～88 年篠原一男アトリエ。88 年高橋寛とワークステーション設立。2004 年～武蔵野美術大学教授。主な作品に「高知県立坂本龍馬記念館」（JIA 新人賞他）、「アパートメンツ東雲キャナルコート」（BCS 賞他）、「芦北町交流センター」（日本建築学会作品選奨他）。著書に『パブリック空間の本』（彰国社）。

－専門分野・研究テーマ

建築デザイン。建築の空間構成・現象の研究、パブリック性をもつ空間の研究。

－高橋スタジオのテーマ

無意識に捉えている事柄を再定義し、あらたな発見を伴う建築を目指しています。建築の構成と現象を常に同時に考えることを意識し設計を進めます。



菊地 宏 教授

建築家 / 菊地宏建築設計事務所 代表

www.hiroshikikuchi.com/?dr=studio

1972 年東京都生まれ。98 年東京理科大学大学院修士課程修了。妹島和世建築設計事務所 (SANAA)、Herzog & de Meuron（スイス・バーゼル）を経て、2004 年菊地宏建築設計事務所を設立。10 年～武蔵野美術大学准教授。18 年～同教授。主な作品に「南洋堂改修」、「大泉の家」（住宅建築賞）、「煙の見える家」などがある。著書に『菊地宏 | パソコンティヌスオー空間を支配する旋律』（2013 年、LIXIL 出版）。

－専門分野・研究テーマ

建築デザイン。さまざまな素材や方法による建築の表現方法の研究と実践。

－菊地スタジオのテーマ

建築の原始的姿から現代の建築を読み解く。特に建築の足元である地面に着目し、地形と都市、地形と建築、それにまつわるさまざまなことを包括的に捉えます。



鈴木 明 教授

www.facebook.com/akirasuzukistudio

1953 年東京都生まれ。77 年武蔵野美術大学建築学科卒業。79 年同大学院修士課程修了。新建築社編集部勤務を経て、86 年建築都市ワークショップ設立。2000-14 年神戸芸術工科大学（01 年～教授）。14 年～武蔵野美術大学教授。主な作品に「建築教室」（ワークショップ）、「せんだいメディアテーク」「多摩美大図書館」インタラクションデザイン（設計＝伊東豊雄）。著作・研究に『つくる図書館をつくる』（鹿島出版会）、「ル・コルビュジエ・モデュロールの身体図像研究」。

－専門分野・研究テーマ

建築デザイン建築計画・建築論、インタラクションデザイン。社会的な活動としてワークショップによるまちづくり、建築批評や建築展（企画運営）。研究課題として「セルフビルド建築研究」「ル・コルビュジエの身体図像に関する研究」など。

－鈴木スタジオのテーマ

3 年生は、地域と環境に根ざした公共施設・公共空間を設計する。4 年生は、まちや地域の捉え方、活性化の方法論を学び、建築の提案につなげていきます。卒業研究（論文と制作）は地域・特定の地区や街並みを調査して文化や暮らしを活性化する計画を行う。また各自が関心を持つ個別の研究を進めます。



布施 茂 教授

建築家 / fuse-atelier 代表

fuse-studio-musabi.com
www.facebook.com/fuse.s.mau
www.instagram.com/fuse_studio_musabi

1960 年千葉県生まれ。84 年武蔵野美術大学建築学科卒業。84 年東京工業大学工学部建築学科坂本研究室研究生。85 年～第一工房、95 年同設計部長。2003 年 fuse-atelier 設立。04 年～武蔵野美術大学助教授。06 年～同教授。主な作品に「全労済情報センター」（第一工房）、「群馬県立館林美術館」（第一工房）、「House in TATEYAMA」、「House in ABIKO」、「House in TSUTSUMINO」、「House in TSUDANUMA」、「House in KANNOU」、「House in JYOUSUI-SHINMACHI」など。

－専門分野・研究テーマ

建築設計。建築におけるシークエンス、空間の分節、プロポジション、素材、ディテールの探求。

－布施スタジオのテーマ

建築設計に特化したスタジオで、実践的な建築設計や実際の建築作品を通して建築の新たな可能性を探索します。



持田 正憲 教授

MOCHIDA 建築設備設計事務所 代表

www.facebook.com/mochidastudio/
www.instagram.com/mmochida_musabi/
twitter.com/mochidastudio

1972 年神奈川県生まれ。96 年 工学院大学工学部建築学科卒業。設備設計事務所、組織設計事務所での設備設計実務を経て、18 年 MOCHIDA 建築設備設計事務所を設立。21 年～武蔵野美術大学教授。主な作品に「ROGIC -ROKI Global Innovation Center-」（小堀哲夫建築設計事務所、日本建築学会賞・JIA 日本建築大賞・BCS 賞）、「山形エコハウス」（羽田設計事務所・東北芸術工科大学）。著書に『ビル管理技術者のための設備のしくみがわかる本』（共著 オーム社）など。

－専門分野・研究テーマ

建築設備設計、建築環境デザイン、建築環境工学。建築と環境・設備の融合、建築と自然の共存、建築と人間の新しい環境。

－持田スタジオのテーマ

環境・設備的な観点からの調査・分析やさまざまな体験・体感を通して、建築環境デザインを議論し、これからの地球環境時代に対する新たな答えを探ります。



長谷川 浩己 特任教授

オンサイト 計画設計事務所 パートナー

musabi-landscape.net
www.facebook.com/musabi.landscape.hasegawa

1958 年千葉県生まれ。千葉大学を経て、オレゴン大学大学院修士課程修了。2009 年～武蔵野美術大学特任教授。「横浜ポートサイド公園」、「館林美術館 / 多々良沼公園」、「丸の内オアゾ」、「東雲 CODAN」、「星のや軽井沢」、「ハルニレテラス」、「日本橋コレドの広場」などで、グッドデザイン賞、造園学会賞、土木学会デザイン賞（最優秀賞）、AACA 芦原義信賞、ARCASIA GOLD MEDAL、アーバンデザイン賞などを受賞。共著に『つくること、つくらないこと』（学芸出版社）など。

－専門分野・研究テーマ

ランドスケープ・アーキテクチャ。実務をとめない、小さな庭から大きな都市スケールまで、コミュニティから経済的根拠までカバーしつつ、デザインの価値を考える。

－長谷川スタジオのテーマ

自分という部分から、風景という全体を考えていきたい。対象が大きく関わる人も多いので、スタジオではディスカッションを重視し、皆が共有できるビジョンを掲げられるデザイナーを目指しています。



永山 祐子 客員教授

建築家 / 永山祐子建築設計 主宰

http://www.yukonagayama.co.jp/
※スタジオは開設していません

1975 年東京生まれ。1998 年昭和女子大学生生活学科卒業。1998 年青木淳建築計画事務所勤務。2002 年永山祐子建築設計設立。主な仕事、「LOUIS VUITTON 京都大丸店」「豊島横尾館」「女神の森セントラルガーデン」「ドバイ国際博覧会日本館」「東急歌舞伎町タワー」など。JIA 新人賞 (2014)、山梨県建築文化賞、東京建築賞優秀賞 (2018)、照明学会照明デザイン賞最優秀賞 (2021)、World Architecture Festival Highly Commended(2022) など。現在、2025 年大阪・関西万博「パナソニックグループパビリオン『ノモの国』」と「ウーマンズパビリオン in collaboration with Cartierj、Torch Tower(2027 年度)などの計画が進行中。

－専門分野・研究テーマ

建築設計、人と環境・人と人が繋がるきっかけとなるデザイン

－学生に期待すること・メッセージ

私は建築に携わることで色々な世界に触れ、社会の仕組みを知ることができました。今後どんな方向に進もうと役立っていくと思います。

講師

青木 弘司（設計計画Ⅲ -2）
荒 真一（構造力学Ⅱ）
安藤 聡（写真表現）
石井 秀幸（設計計画Ⅲ -2）
伊藤 裕久（都市デザイン B）
伊藤 友紀（建築設計表現）
今村 水紀（設計計画Ⅱ -2）
岩下 泰三（図学）
上田 明宏（建築施工Ⅰ / Ⅱ）
上田 宏（写真表現）
植田 美佳（基礎数学）
大野 暁彦（ランドスケープデザイン近代史）
奥野 公章（設計計画Ⅲ -2）
奥村 誠一（建築構法、建築構法特論）
笠置 秀紀（建築設計表現）
加藤 修（環境生態学Ⅰ / Ⅱ）
香月 真大（設計計画Ⅳ）
金田 未来（設計計画Ⅱ -1）
狩野 佑真（設計計画Ⅲ -1）
亀山 本果（環境計画 b）
川嶋 貴介（設計計画Ⅳ）

川村 政治（建築設備特論）
河野 有悟（建築設計基礎）
後藤 武（建築意匠 B）
小林 敦（建築設計基礎）
後藤 武（建築意匠 B）
三幣 順一（設計計画Ⅲ -2）
渋谷 桂子（環境生態学特論）
杉山 経子（建築材料学・実験Ⅱ）
鈴木 竜太（設計計画Ⅰ -1 / Ⅰ -2）
高沖 哉（環境計画 b）
高木 利彰（建築材料学・実験Ⅰ）
田口 明美（建築設備・実験Ⅱ）
田邊 寛子（都市デザイン A）
田原 唯之（設計計画Ⅳ）
田宮 晃志（設計計画Ⅱ -2）
常山 未央（設計計画Ⅲ -2）
戸井田 雄（造形演習）
冨永 信忠（建築法規Ⅰ / Ⅱ）
中川 純一（設計計画Ⅳ）
中村 幸悦（構造力学Ⅰ）
中村 秀規（建築設備・実験Ⅱ）



小松 宏誠 特任准教授

アーティスト

http://kosei-komatsu.com/mau/top.html

1981 年徳島県生まれ。2004 年に武蔵野美術大学建築学科卒業、2006 年に東京藝術大学大学院修了後、アーティストグループ「アトリエオモヤ」のメンバーとして、自然の物理現象に着目した作品制作を開始。2014 年に独立。「浮遊」や「鳥」への興味からはじまり、現在では「軽さ」「動き」「光」に着目した作品を展開中。美術館での作品展示をはじめ、商業施設など大空間での空間演出も行う。

－専門分野・研究テーマ

建築と美術、環境造形、空間表現。実践的な活動を通し、建築と美術の領域から生まれる総合的表現を探究します。

－小松スタジオのテーマ

建築と美術の領域からはじまり、幅広い想像力と関係性で、社会における新たな価値・役割を発見し生き抜くクリエイターを育てたいと考えています。



大島 芳彦 客員教授

建築家 / 株式会社ブルースタジオ クリエイティブディレクター
※ 2023 年度より着任

※スタジオは開設していません

1970 年東京生まれ。1993 年武蔵野美術大学建築学科卒業。南カリフォルニア建築大学大学院を経て 1997 年 石本建築事務所勤務。2000 年ブルースタジオ一級建築士事務所。主な作品「Lattice Aoyama」、「たまむすびテラス」、「まちのこども園代々木公園」、「hocco」、「ユクサおおすみ海の学校」、「福島県双葉町災害公営住宅・えきにじ住宅」「ホシノタニ団地（グッドデザイン ファイナリスト金賞）」、「北条まちづくりプロジェクト -morineki-（都市景観大賞・国土交通大臣賞）」、「リノベーションスクールを通じた人材育成と地域再生事業（日本建築学会教育賞）」

－専門分野・研究テーマ

建築設計、リノベーション、コミュニティーデザイン、地域再生

－学生に期待すること・メッセージ

建築物とは空間資源であり「社会的共有資本」。活きた建築を生み出すために建築家に必要な能力は社会環境に対する飽くなき好奇心とフットワークです。

研究室スタッフ

中村 文美（設計計画Ⅳ）	助手	大関 龍一
新聞 謙一郎（設計計画Ⅳ）		北島 未来
野本 哲平（造形総合・デザインⅡ）		木村 幸伸
畠山 鉄生（設計計画Ⅱ -2）		齊藤 啓輔
林 英理子（設計計画Ⅳ）		棚橋 玄
針谷 将史（設計計画Ⅲ -1）		三ツ井 岳
平井 政俊（設計計画Ⅲ -1）		
藤原 工（建築設備・実験Ⅱ）		
古澤 大輔（設計計画Ⅳ）		
細野 達哉（庭園史）		
増田 信吾（設計計画Ⅳ）		
松田 頼征（構造力学基礎）		
水上 哲也（設計計画Ⅱ -1）		
三家 大地（設計計画Ⅲ -1）		
宮内 義孝（設計計画Ⅳ）		
山内 彩子（環境計画 b）		
山家 明（設計計画Ⅱ -1）		
山田 陽平（設計計画Ⅰ -1 / Ⅰ -2 / 造形総合・デザインⅡ）		
山村 尚子（設計計画Ⅲ -1）		
山本 大介（設計計画Ⅱ -2）		
吉澤 真太郎（ランドスケープデザイン近代史）		

※教員紹介は、2023 年度の在職状況を記載しています。



安藤 雅敏
大林組設計本部
設計部長



大正大学図書館 (2021 年)
グッドデザイン賞、iF Design Gold Award 受賞

ー現在のお仕事について
あらゆるタイプの建築物を設計する大きな組織の中で、教育施設やリノベーションを手掛けています。
ームサビで学んだこと
他分野との刺激的な交流を通じ、自然と幅広い視野で建築を考えるようになりました。



大堀 伸
ジェネラルデザイン
代表



「Reload Shimokitazawa」(2021 年)

ー現在のお仕事について
商業施設や個人住宅の建築設計から、ショップや飲食店のインテリアデザインなどを行っています。
ームサビで学んだこと
ものをつくる様々な分野の友人との対話、つながりの大切さ。



小嶋 香
KOBFUJI Architects
共同主宰



「スマラガ郷土資料館」(2014 年)
撮影 = KOBFUJI Architects

ー現在のお仕事について
スペインを拠点に建築やランドスケープを通して、百年以上前の建物や自然という圧倒的魅力を既に持つ対象を守り次へ繋げることを考えながら設計活動を行っています。
ームサビで学んだこと
分野を超えた授業内容により、音楽、デザイン、アート、美術史等、多方面から建築へアプローチすることの楽しさを学びました。



鈴木 莉紗
日本放送協会
デザインセンター
映像デザイン部 デザイナー



「第 71 回 NHK 紅白歌合戦」(2020 年)

ー現在のお仕事について
美術セットや CG、グラフィックのアートディレクションを行いながら、番組のビジュアル全般を担当しています
ームサビで学んだこと
先生や仲間との刺激的な交流から、モノを生み出す情熱や、挑戦する楽しさを教わりました。



小坂 竜
乃村工藝社
商環境 事業本部 A.N.D.
クリエイティブディレクター



「The Hotel Seiryu Kyoto Kiyomizu」京都 (2020 年)

ー現在のお仕事について
大きな会社に属しながら、青山にも事務所を構え、国内外の上質なホテル・レストラン・レジデンスなどのデザインをしています。
ームサビで学んだこと
色んなジャンルのモノをつくる仲間がいるので、モノをつくる楽しさと厳しさを経験することができました。



田中 裕大
株式会社 竹中工務店
東京本店 設計部主任



「東京ミッドタウン八重洲」(2022)

ー現在のお仕事について
東京ミッドタウン八重洲の設計に携わり、現在は銀座テナントビルの改修計画や学生寮の設計を行っています。
ームサビで学んだこと
あらゆる表現を尊重する姿勢、経験と知識の偏りがオリジナリティになること、モノや現象に与える言葉の大切さ。



横田 典雄
CASE DESIGN STUDIO
代表



「軽井沢矢ヶ崎の家」(2016 年)
撮影 = 新建築社

ー現在のお仕事について
主に住宅や別荘などを設計。どのような用途になっても成立する空間性を獲得するように意識し、バランスがとれた建築を目指しています。
ームサビで学んだこと
様々な分野の人々から、理屈ではない美しさや力強い自由など、自分に足りないものを感じることができました。



池川 健太
(株) 博報堂
クリエイター / プランナー



Google Chromebook プロモーション (2019 年～)

ー現在のお仕事について
Google Chromebook、日本コカ・コーラ 綾鷹、メルカリ、Amazon など多くのグローバルブランドや先端 IoT 家電などの事業開発から広告設計まで担当。
ームサビで学んだこと
建築的思考は、建築だけではなくあらゆる領域に活かせる事が出来ます。制作だけに没頭できる環境があった事に今ではとても感謝しています。

主な就職先

■アトリエ系建築設計事務所

芦原太郎建築事務所、APOLLO Architects & Associates、アライイリエアーキテクト、アンドウ・アトリエ、石上純也建築設計事務所、乾久美子建築設計事務所、畝森泰行建築設計事務所、O.F.D.A、小川晋一都市建築設計事務所、オンデザインパートナーズ、カスヤアーキテクトオフィス、城戸崎建築研究室、限研吾建築都市設計事務所、佐久間徹設計事務所、SALHAUS、SANAA、スキーマ建築計画、スタジオプラナ建築設計事務所、團紀彦建築設計事務所、都留理子建築設計スタジオ、手塚建築研究所、中川エリカ建築設計事務所、永山祐子建築設計、NAP 建築設計事務所、成瀬・猪熊建築設計事務所、能作淳平建築設計事務所、袴田喜夫建築設計室、坂茂建築設計、彦根建築設計事務所、藤本壮介建築設計事務所、fuse-atelier、ブルースタジオ、細矢仁建築設計事務所、横総合計画事務所、増田信吾 + 大坪克亘、光井純 & アソシエーツ建築設計事務所、ミリグラムスタジオ、矢萩喜俊郎建築計画、山本理顕設計工場、横内敏人建築設計事務所、ヨコミゾマコト建築設計事務所、吉村靖孝建築設計事務所、ワークステーション、若松均建築設計事務所、403architecture[dajiba]

■組織設計事務所

あい設計、相和技術研究所、池下設計、伊藤喜三郎建築研究所、梅沢設計、日建設計、日本設計、日本建築構造センター、バックグランド、プランテック総合計画事務所、三輪設計事務所、UDS、類設計室

■建設会社

青木あすなろ建設、大林組、小川建設、鹿島建設、鴻池組、清水建設、大成建設、JR 東日本、JR 東日本都市開発、新三平建設、大同工業、大和小田急建設、高松建設、竹中工務店、戸田建設、フジタ、平成建設、森ビル、ヤマウラ

■住宅メーカー

アキュラホーム、飯田産業、エス・バイ・エル、オープンハウス・アーキテクト、スウェーデンハウス、住友林業、積水ハウス、大和ハウス工業、タマホーム、東急ホームズ、東京セキスイハイム、トヨタホーム東京、ニッソー住宅、パナホーム、ポラスグループ、ミサワホーム、三井ホーム、ヤマネホールディングス、ユウキ建設

■不動産業

エスケーホーム、王子不動産、木下不動産、サジェスト、JR 東日本ビルディング、大東建託、東京建物、日神不動産、野村不動産パートナーズ、三井不動産リアルティ、三菱地所プロパティマネジメント

■ランドスケープデザイン

オンサイト計画設計事務所、スタジオテラ、ソラ・アソシエイツ、ランドスケープデザイン、ランドブレイン

■インテリア・ディスプレイ

イニシャルジャパン、イリア、インテンショナリーズ、ウエル・ユーカン、エイククリエイツ、遠藤照明、岡村製作所、グリーンディスプレイ、小林工芸社、ココロ、コトブキ、ジーク、GK デザイン、ジールアソシエイツ、昭栄美術、スペース、船場、ソーケン、高島屋スペースクリエイツ、タカラスペースデザイン、竹内デザイン、丹青社、ツクルバ、デザインアートセンター、ドラフト、夏水組、日建スペースデザイン、乃村工藝社、博展、ハコリ、三越伊勢丹プロバティ・デザイン、ルーヴィス、ワンダーウォール

■ファッション

アズノウアズ、イッセイミヤケ、エース、オンワード樫山、貴和製作所、ケイ・ウノ、コムデギャルソン、ベイクルーズ、丸高衣料、リデア

■舞台

劇団四季、シミズオクト、日本ステージ

■メディア

アサツーディ・ケイ、NHK、光文社、商店建築社、新建築社、新潮社、タツノコプロ、TCJ、TBS テックス、テレビ朝日、日本テレビアート、フォアキャスト・コミュニケーションズ、ホビージャパン、マルモ出版

■広告・グラフィックデザイン

アマナホールディングス、電通テック、凸版印刷、ナカサアンドパートナーズ、博報堂アイ・スタジオ

■官公庁

宮内庁、宮城県庁、昭島市役所、川崎市役所、神戸市役所、調布市役所

■その他

NTT データ・ファイナンシャルコア、クレスコ、湘南ゼミナール、TOTO エキスパート、日大グラビヤ、ニューファニチャーワークス、日比谷花壇、福武財団、ベネッセスタイルケア、MAG BY LOUISE、丸井、ムーンスター、無印良品 (上海) 商業有限会社、UT コンストラクション・ネットワーク、ルビシア、レクシア

主な進学先・留学先

武蔵野美術大学大学院、東京大学大学院、東京藝術大学大学院、東京工業大学大学院、東京理科大学大学院、早稲田大学大学院、慶應義塾大学大学院、明治大学大学院、同志社大学大学院、東京都立大学、横浜国立大学大学院、筑波大学大学院、千葉大学大学院、東北大学大学院、大阪大学大学院、大阪市立大学大学院、京都芸術大学大学院

AA スクール、オスロ建築デザイン大学、カタルーニャ工科大学、グラスゴー美術学校、プラットインスティテュート、ミラノ工科大学、ロンドン芸術大学

在校生・卒業生の受賞

■2022 年

「JIA 東京都卒業設計コンクール 2022」工藤賞：古川 隼也
「日本造園学会学生会公開デザインコンペ」入賞：長谷川 ゆい・王 雪純(グループ応募)
「住宅建築賞 2022」金賞：畠山 鉄生 + 吉野 太基
「いちこやプロジェクトコンペ」採択：滝川 寛明
「建築学縁祭～Rookie 選～」最優秀賞：吉村 優里 佳作：山田 遼馬
「建築新人戦 2022」優秀新人賞：吉村 優里 16 選：山田 遼馬
「Vectorworks デザインスカラシップ 2022」最優秀賞：三原 陽莉 長谷川 ゆい
「2022 年度グッドデザイン賞」：棚橋 玄
「第 22 回住宅課題賞 2022」植田実賞：宮地 凌央
「せんだいデザインリーグ 2023 卒業設計日本一決定戦」日本三：奥田 涼太郎
「トウキョウ建築コレクション 2023 全国修士設計展」藤本 壮介賞：三原 陽莉
「日比谷ランドスケープデザイン展 2023」最優秀賞・石上純也賞：長谷川 ゆい
「第 29 回空間デザインコンペティション」入選：杉山 峻涼

■2021 年

「全国合同卒業設計展 卒、22」優秀賞、クリティーク賞(多田脩二賞)：古川 隼也
「赤れんが卒業設計展 2022」101 選：古川 隼也
「第 31 回 JIA 東京都卒業設計コンクール 2022」工藤賞：古川 隼也
「第 28 回 空間デザイン・コンペティション『野生のガラス』」入選：若杉 陸
「日比谷ランドスケープデザイン展 2021」優秀賞：半田 心
「第 13 回 ハーフェレ学生コンペティション 2021」最優秀賞：長谷川 ゆい、三原 陽莉
「第 44 回 学生設計優秀作品展ー建築・都市・環境ー」レモン賞：近藤 直輝
「第 29 回 UBE ビエンナーレ」
実物制作指定作品 15 選：當眞嗣人、井口雄介、中村厚子 入選作品 40 選：近藤洋平
「建築新人戦 2021」優秀新人賞：始良 壮志、8 選受賞：宮地 凌央
16 選受賞：阿部 朔太、100 選：広瀬 了、奥田 涼太郎、吉村 優里
「SD レビュー 2021」入選：天野 亮平、西本 光
「日本造園学会全国大会 2021 学生デザインコンペ」入賞：長谷川 ゆい

■2020 年

「第 20 回住宅課題賞 2020」優秀賞 1 等：二又 大瑚
「JIA 全国学生卒業設計コンクール 2020」銅賞：山田 寛太
「建築新人戦 2020」16 選：大月 菜子、古川 隼也
「仮囲いデザインコンテスト」優秀賞：岩穴 颯音、一色 淳之介、税所 飛駆
「第 29 回 JIA 東京都卒業設計コンクール 2020」田根賞：山田 寛太
「2021 年日本建築学会文化賞」受賞：藤江 和子、真壁 智治
「大津京マンション設計コンペ」2 等賞：滝川 寛明
「第 62 回全国カタログ展 カタログ部門」経済産業大臣賞・金賞：根間 太作
「クリエイティブ・アド」グランプリ：高田 雄大朗
「六甲ミーツ・アート 芸術散歩 2020 公募大賞」グランプリ：上坂 直
「Young Lotus Workshop」日本代表：高田 雄大朗
「第 14 回キッズデザイン賞」受賞：鈴木 竜太、田中 匡美



「日本空間デザイン賞 2019」ショップ空間 金賞「NSK MUSEUM」佐々井 歩
写真：ナカサ&パートナーズ 河野 政人

2024年度 建築学科 入学試験情報

一般選抜 募集 62 名

一般方式 募集 35 名 本学独自の国語・外国語 ・専門試験	共通テスト 2 教科 + 専門試験方式 募集 15 名 大学入学共通テスト + 本学独自の専門試験	共通テスト 3 教科方式 募集 12 名 大学入学共通テストのみ
国語・外国語科目 ①国語 100 点 ②外国語 100 点	選択 2 科目 ①国語 / 外国語 / 数学 のうち 1 科目選択 100 点 ②選択科目 100 点	必須 1 + 選択 2 科目 ①外国語 100 点 ②国語 / 数学 のうち 1 科目選択 100 点 ③選択科目 100 点
専門試験科目 ③鉛筆デッサン / 数学 どちらか 1 科目選択 200 点		

総合型選抜(自己推薦) 募集 10 名

■一般方式 (学校長推薦不要・評定平均値指定なし) 自己推薦調書による第一次選考と、表現力テスト+グループ面接による第二次選考で、建築学科で学ぼうとする関心の高さを主眼として選抜します。 出願に先立って希望者には「事前面談」を実施します。 ■出願可能年齢 2024年4月1日時点で満28歳以下の者

大学院選抜 造形研究科修士課程 デザイン専攻建築コース

■選考方法 ①即日設計 / 小論文 のうち 1 科目選択 ②プレゼンテーションおよび面接
■提出作品 近作 1 点 ポートフォリオ (近作 3 点以上) または論文

入学試験に関する情報・お問い合わせ

※入学試験概要, 募集要項, 過去の入試問題など詳細は、本学ウェブサイト「入試情報」よりご確認ください。
武蔵野美術大学 www.musabi.ac.jp
入学センター tel: 042-342-6995 (月 - 土 / 9:00 ~ 16:30)

学部卒業後に取得可能な資格

- ・一級建築士受験資格
- ・二級建築士受験資格
- ・木造建築士受験資格
- ・学芸員 (別途、科目履修が必要となります)

※一級建築士の免許登録には 2 年以上の実務経験が必要となります。

※大学院は建築士試験の大学院における実務経験要件に対応しています。

大学院で開講している科目の単位取得数により、建築士試験の大学院における実務経験年数 1 年または 2 年が認定されます。

詳しくは研究室にお問い合わせください。

※本学科には教職課程は設置されていません。

武蔵野美術大学建築学科 学科紹介 2024

2023 年 6 月 1 日発行

発行：武蔵野美術大学建築学科研究室

〒187-8505 東京都小平市小川町 1-736

tel: 042-342-6067 fax: 042-344-1599

mail: arc@musabi.ac.jp

website: www.arc.musabi.ac.jp

facebook: www.facebook.com/arc.musabi

企画編集：建築学科研究室 (大関 龍一)

デザイン：入江 剛史

写真撮影：村松 聡、大関 龍一、建築学科研究室

印刷：株式会社アトミ

表紙作品：吉田 真「産業遺産転用計画」

(2022 年度卒業制作 金賞・優秀賞)